



学校だより

学校教育目標

郷土を誇りに思い、未来社会を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

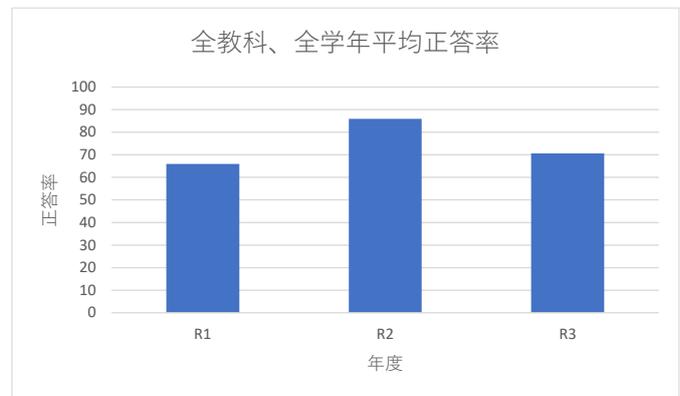
第20号

令和4年1月26日発行

文責 校長 宮地 浩幸

学習状況調査

県内の小学4年生以上の小中学生を対象に令和3年12月1日、2日に学習状況調査が実施されました。学習状況調査は客観的な本校児童生徒の学力を示す一つの指標だととらえて、今後の教育活動に活かせるよう、分析を行いたいと思います。本校の場合は小学4年生以上の児童生徒が2名であるために、個人の成績が直接学校の状況に反映されます。従って、統計的に示すためにも、全ての児童生徒の全ての教科における全ての問題の正答率を見て、大まかな傾向をつかむことにしました。令和元年度からの推移をグラフに示しました。昨年度は大きく正答率が向上したことを示しましたが、今年は下がってしまいました。しかし、受検をした2人の児童生徒は、昨年度に比べ、それぞれが1学年進級しています。学年が上がることにより学習の難易度が上がります。そのことによる影響は否めないと思います。本年度の県平均との比較では1.3（県平均と同じなら1.0）なので、県全体で考えれば、十分できている方だと考えます。というのも正答率が7割程度であるために100点満点では70点です。これをどうとらえるかは、それぞれの判断に任せます。学校規模が小さい事から、先生方の丁寧な指導が子ども達に反映していると考え、今回の調査で各教科における具体的な課題も見えますので、その克服に向けて、3学期は学習の総仕上げを行わなければなりません。個票を配付していますのでご家庭でも十分話し合いをされてください。



避難訓練

1月13日（木）の午後に、地震・火災避難訓練を行いました。想定は地震が発生して、給食室から出火したというものです。2学期に育友会の皆様のおかげで、校内の雑木伐採を行い大変整備された避難経路になっています。子ども達は、放送の指示に従い、素早く避難できました。当日は、雨は降っていませんでしたが、寒気の到来で、気温が低く、風がとても強い一日でした。

先日もトンガの海底火山の大噴火により、日本にも津波の影響がありました。陸部の学校と違って、本校においては、地震発生により火事や建物崩壊の危険性の他に、津波の心配もあります。また、地震や津波の影響で、原子力発電所の事故があった場合の避難も想定されます。私たちは、常に命を守る意識が必要です。本校では想定される危険が多いからこそ、防災教育への取り組みも重要です。



本年度表彰

右表に令和4年1月14日（金）現在での本年度の子ども達の表彰履歴を示しました。勉強や運動の成果をしっかりと発揮できた証です。

定期的な集会時に、子ども達にまとめて表彰を伝えるのですが、全ての子ども達が少なくとも1回の表彰を受けています。また、表彰内容も県レベルでの上位の表彰もあり、学校生活を頑張る子ども達の1面を表彰の数や質として数値で示すことができたことを大変うれしく思います。これも子ども達の頑張りや先生方の努力がしっかりと身を結び、子ども達の資質や能力の育成に大きく寄与したものとなりました。

ところで、表彰は受賞者をほめたたえるわけですから自己に対する有能感が増します。これは、とても大切なことです。全国では、長期休業明けに自殺者が増えるという傾向があります。自己肯定感が下がった時に、自殺を起こしやすい傾向があります。そのようなことの未然防止のためにも、子ども達の表彰は、ご家庭でも十分称賛してください。

校種	学年	審査会名/大会名/他 ※正式名（年度含む）	成績
小	5	九州ジュニアテニス選手権佐賀県予選	第3位
中	2	第13回唐津市中学生テニス選手権大会	準優勝
小	2	日本漢字能力検定10級	
小	5	日本漢字能力検定6級	
小	5	七夕書き方会	地区入選
中	2	七夕書き方会	地区入選
小	5	全国青少年読書感想文コンクール	地区入選
中	2	全国青少年読書感想文コンクール	地区入選
小	5	全国書画展覧会	金賞
中	2	全国書画展覧会	金賞
小	1	学童美術展支部審査	支部入選
小	1	学童美術展支部審査	支部入選
小	2	学童美術展支部審査	支部入選
小	3	学童美術展支部審査	支部入選
小	5	学童美術展支部審査	支部入選
中	2	学童美術展支部審査	支部入選
小	1	ゴールドチャレンジ達成賞	
小	5	ゴールドチャレンジ達成賞	
中	2	佐賀県児童生徒理科研究発表会	県教育長賞
小	5	体力向上優良校等に対する県教育長表彰	

多様な生き方

1月18日（火）の午後にSC（スクールカウンセラー）の川上先生にも入っていただき、小学校低学年と小学校高学年及び中学生に分けて、道徳の授業を行いました。教材は「4本の木」その内容は次の通りです。

「丘の上に一本の高い木が立っていました。ある夏、今までにないくらい激しい風が吹いて、その木は幹から折れてしまいました。それを見ていた小さな3本の木たちが「どうしたら折れない木になれるだろうか?」を考え、それぞれの方法で風の中を生きぬいていく」というお話です。4本の木は次の通りです。

「一樹」…風に吹かれて一度折れても、また新しい枝を生やす

「大樹」…風に吹かれても微動だにしない強さをもつ

「優樹」…風の流れに合わせてしなやかに動く

「友樹」…鳥や土の力を借りて、風から守ってくれる沢山の木を周りに生やす

高学年グループは、比喩の内容に気付きグループエンカウンターで、それぞれの生き方を認め合い、尊重して参加者相互が自己肯定感を高める活動ができました。小学校低学年は、具体的な日常生活に置き換えて、「4本の木」に関わる内容を考えました。本校においてはグループ活動を行うことが環境的には難しいのですが、川上先生に参加してもらいそれを克服する活動ができました。



ブランチャード先生（ALT）

3学期になり、ALTとしてブランチャード先生がお見えになりました。先生は、タコが好きだそうです。外国の人はタコをあまり食べません。8本脚を宗教的に忌み嫌うところがあるのがその原因のようですが、そんな風変わりな先生ですが、とても英語が分かりやすいと思います。少し授業を見せてもらいましたが、コミカルなジェスチャーと分かりやすい英語でコミュニケーションを子ども達ととられます。子ども達は先生の英語に対し、うなずき、先生が言いたいことに反応します。その様子を見ているとかなり、指導スキルが高い先生だと感じました。